

願道手引き

一つの願いを持ち「願道」を歩く。
三つの印を集め、三つの縁を結ぶとき、風水の加護が宿る。



2つの風水結界

四神相応の好立地+風水

江戸初期の風水では、重要ポイントを南北軸に設定する。陰陽道の権威を独占する土御門家においても、四神相応の要件として、南北に長く、東西は短く、しかも北が高い土地を、繁栄する吉相と考えていた。高岡の城下町は、この南北軸を設定するに当たり、北に二上山を置いた。そして軸を南に延長させたところ、すなわち大三角形の一角、瑞龍寺と白山神社を貫通するラインの交点に、利長の墓所をおき、その守護を置く礎としたのである。この南北軸によって、高岡はいよいよ、前田入府以前の領主が住んだ、二上山守山城と、新しい領主前田利長との連合により繁栄をめざす町をして、運命づけられるようになった。

二上山を、風水パワーの源に、城下町つくり。

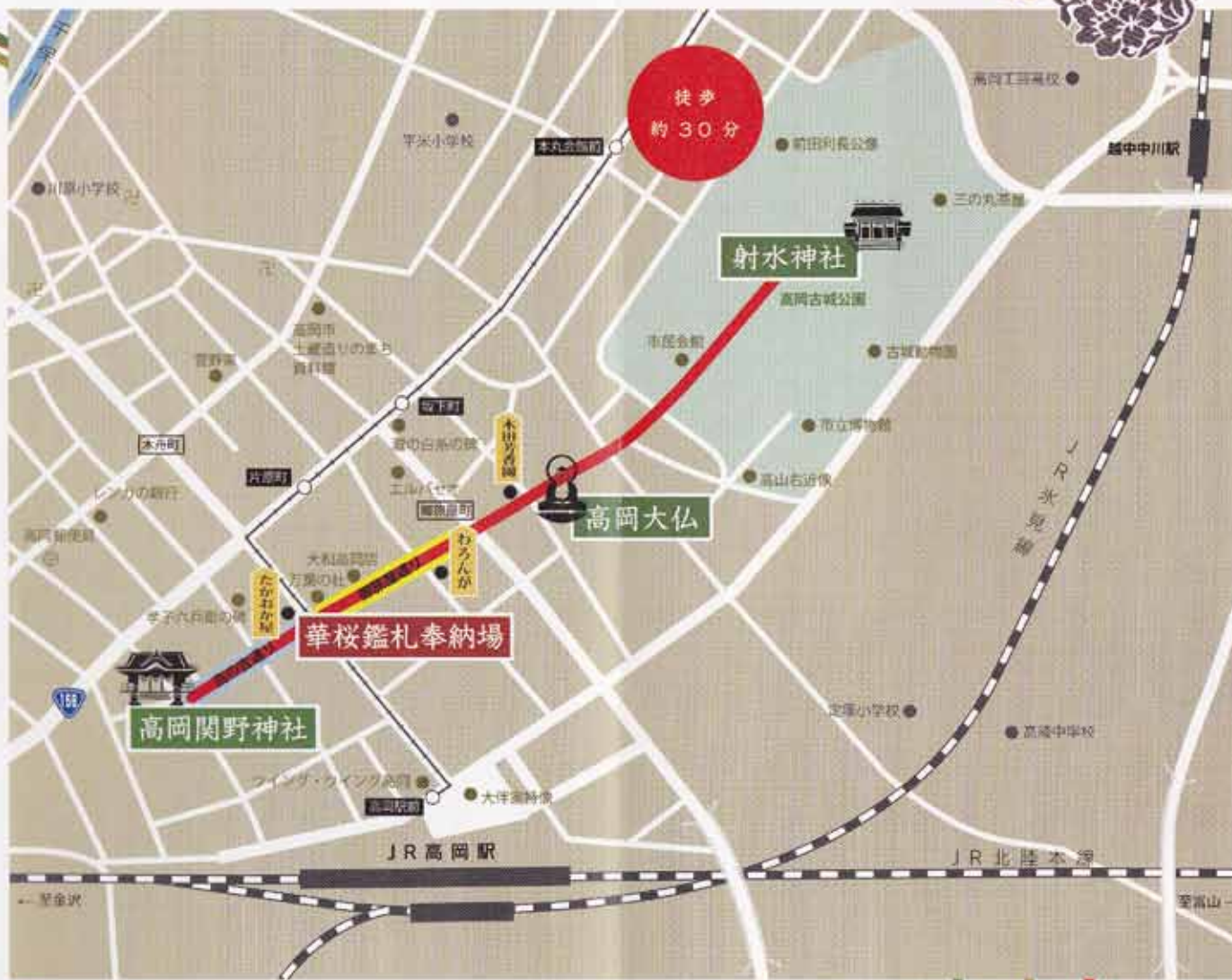
- ▲の頂点（北）は、二上山に発し、南西端に瑞龍寺、南東端に白山神明を配した長三角形を形成する。
- ▲二上山は、高岡市の祖山であり、市から見ると北方角に正しく位置している。
- ▲白山信仰は、金沢あたりを中心に進展した豊饒と豊作を祈る霊力。
- ▲瑞龍寺の本尊は、仏ではなく、この町を築いた二代藩主、前田利長である。

四神相応の好立地。

さらに、2つの霊的加護をもつ風水の結界で、高岡城本丸を守る。

- ▲龍脈パワー。
二上山を修行しないし、霊場としてきたのが、熊野修験だった。その熊野信仰の拠点によって囲まれている地域を、二上山の龍脈パワーで守ろうという風水仕法と考えられる。同時に、これは加賀前田以前に成立舌古い修験による霊的バリアなのである。
- ▲死、黄泉の世界を現すシンボリックな縄張り。
二上山と、熊野をシンボルとした小三角形は、死者（すなわち高岡城を建てた藩主）を守る縄張りといえる。小三角形の一端を担う極楽寺は、二上山にあった浄土宗の寺を、高岡に移築したものである。

願いのかなうストリートMAP



鑑札購入場所

- ◆射水神社
- ◆高岡大仏
- ◆高岡関野神社
- ◆たかおか屋
- ◆わろんが
- ◆木田芳香園

※場所は上記地図にてご確認ください。

鑑札は七夕で願いをかけた後に、神社にて焚き上げを行います。

「願道」とは

高岡大仏・高岡関野神社・射水神社の3つの縁を繋ぐルートで、願いのかなうストリート「願道」と呼びます。

願道の歩き方

- たかおか屋・わろんが・木田芳香園、もしくは下記3名所内にて、鑑札（500円）を購入する。
- 回り順は自由に3名所を回り鑑札の後面にスタンプを押してくる。
- 華桜鑑札奉納場にて鑑札を奉納し、願いを掛ける。
- 鑑札は七夕で願いをかけた後に、神社にて焚き上げを行う。
- 叶った者の願いは、WEB上の感謝の言葉に記される。

叶った願いはこちらまで…… <http://www.genki-takaoka.jp>

3つの名所で縁を結ぶ、願いのかなうストリート



射水神社

射水神社（いみずじんじや）は、富山県高岡市の高岡古城公園内にある神社である。射水神社の祭神「豊後彦尊（にぎのみこと）」は、伊勢神宮に祀られる天照大神の孫神様。「二上神」とも称され、稲作文化を日本全土に広めたという経緯から、五穀豊饒や商売繁栄の守り神として人々に崇敬されています。



高岡大仏

高岡大仏は高岡副都の職人の技術の結晶とも言えるもので、高岡市の象徴的な観光地となっており、高岡市指定有形文化財に指定されている。奈良の大仏、鎌倉大仏に次ぎ、日本三大大仏に挙げられることもある。また、1933年、歌人の与謝野晶子が高岡を訪れた際に、高岡大仏を「鎌倉大仏より一段と美男」と評したとも伝わり、端正な顔立ちの大仏とも言われる。



高岡関野神社

高岡の人々は、関野神社のことを「高の宮」と呼んで親んでいます。毎年5月10日に行われる高岡関野半山祭はこの関野神社のお祭りであり、「御車山」と呼ばれる7基の曳山が高岡の市街地を巡る。高岡のまちを創った「前田利長」、そして、前田家の先祖である「菅原道真」も御祭神として祭られていること知られている。